

以下の問題文（なおこれは、二〇〇〇年に発表された論説であり、文中で言及される社会保険制度・私保険制度等についての説明は、その当時の状況にもとづくものである）を読んで、次の問いに答えなさい（解答は縦書き。句読点・括弧も一字分として計算する）。

問（一） 問題文において、ケトレ、デュルクム、ゴルトンが、それぞれ統計についてどのような考え方に立っているのか、及びそれらの考え方からどのような形態の保険が派生することになるのかについて、六〇〇字程度で説明しなさい。（五〇点）

問（二） 問題文の末尾（傍線部）において、「多様化・複雑化した社会にふさわしい別の連帯、別の支え合いを構想することも、可能性としてありうるのだ。」とあるが、どのような形の連帯や支え合いがありうるかと考えるか、八〇〇字程度であなたの考えを述べなさい。（五〇点）

〔問題文〕

（問題文略―後掲〔注意〕参照のこと）

〔注意〕

問題文は、重田園江「リスクを細分化する社会」（『現代思想』二〇〇〇年一月号）の一四二頁から一五三頁までを引用した。問題文とするに際し、一部改めたところがある。

なお、問（二）にいう問題文の末尾（傍線部）「多様化・複雑化した社会にふさわしい別の連帯、別の支え合いを構想することも、可能性としてありうるのだ。」とは、原文一五三頁上段二〇～二二行目のそれをさしている。